



全国ツアー中
バイオリニスト

川島 成道さん

かわばた なりみち

を服用し、高熱で入院。体中にできた水ぶくれから出血し、生死の境をさまよった。ステイプン

心から表現したいもの 常に自分に問いかけて

もらった。さらに視力が落ち、見えなくなると父の弾くバイオリンや、母のピアノの音色を耳から覚えるようになった。「すばらしい」。中学

2年の時、来日した巨匠の故アイザック・スターンの公開レッスンで賛辞を受け、勇気をもたらした。国内デビューから6年。2月末から始まった全国ツアーは5月まで続く。「心から表現したいものは何か。常に問いかけ、自分にしか出せない音づくりをしたい。70歳、80歳になっても同じ気持ちで演奏できたら幸せ」。音楽の成長が見逃せない。ツアーは11日横浜、27日東京など。問い合わせはアース・コーポレーション (☎03・5614・6996)。

写真・川田雅浩
文・川俣享子

「視力を悪くしてバイオリンを始めた時から、人生が始まったと受け止めています」

舞台と同じように背筋を伸ばし、丁寧に受け答えをする。昨年度はクラシックでは異例といわれる年間95公演を行い、約11万人の観客を動員した。

8歳のとき、旅先の米国ロサンゼルスで風邪薬

命を取り留めても視力は回復しなかった。演奏者の父を師にバイオリンを手にしたのは10歳。沈みがちな日々に見えるエネルギーを注がれた。そのころから1日7、8時間の練習は変わらない。

4、5年間は両親に五線譜を模造紙に拡大して



東京都出身。桐朋学園大卒後、英国王立音楽院へ留学し首席卒業。ロンドンと東京在住。32歳。